

「自由にして敬虔」

鈴木寛（理学科）

聖書：ヨハネによる福音書8：31，32
イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまっているなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。また真理を知るであろう。そして、真理はあなたがたに、自由を得させるであろう。（日本聖書協会 口語訳）

「自由にして敬虔」この言葉は、ICUでは重要な言葉なのですが、どこかで見たことがありますか。教養学部要覧の「三つの使命」の最初に出てきます。また、ホームページにも「国際基督教大学は、キリスト教の精神に基づき、自由にして敬虔なる学風を樹立し、世界人権宣言の原則に立ち、国際的社会人としての教養をもって、神と人とに奉仕する有為の人材を養成し、恒久平和の確立に資することを目的としています。」と引用されています。

この「自由にして敬虔」に含まれている二つの言葉「自由」と「敬虔」について皆さんはどのようなイメージを持ちますか。私はこの「自由にして敬虔」というフレーズについて、考えることを最近の課題にしています。「自由」はある程度わかる気がします、「敬虔」とは何でしょうか。国語辞典（「大辞林」第二版三省堂）によると「神仏などを深くうやまいつつしむさま」となっています。

今日、お読み頂いた聖書の箇所では、「イエスの言葉にとどまっていれば、イエスの弟子だ。」と言っています。この言葉から考えると、敬虔とは、イエスの言葉にとどまっていることです。それが、イエスの弟子であることの証拠。かつ、イエスの言葉にとどまっていれば、真理を得、自由を得る、というのです。このあとを読むと、自由とは、罪の奴隷の状態からの解放だと言っています。

この大学は、リベラル・エデュケーションを

しているわけですが、それを「閉鎖的・排他的な価値観からの解放」と表現しています。もう少し言葉を継ぐと、自己中心の故に、神様が喜ばれることができず、罪の奴隷の状態にいる、そこからの解放とも言うことができます。こう考えると、リベラル・エデュケーションの根幹は、イエスによって与えられる自由ということになります。

この「自由」および、リベラル・エデュケーションについて、最近2回ほど話し、私のホームページにも原稿を載せてありますから、今日は、「敬虔」について、イエスの言葉にとどまるということを私自身どのように求めてきたかについて、少しお話ししたいと思います。それが、今回のC-Weekのテーマに対する、私の応答になるのではと考えています。

私は、クリスチャンホームに生まれ、小さい頃は、教会学校に行っていました。中学時代、教会に出席しなかった時期もあります。そのあとで、私は、高校生聖書伝道協会と、ナビゲーターズという団体で、キリスト教のことを学ぶようになりました。学ぶというより、訓練を受けるという方が、正しいかも知れません。キリストの弟子になるには、どのようなことが必要か。教会や集会に出席し、毎朝祈りと共に聖書を読み、聖書の全体を何回も読み、聖書を深く学ぶ聖書研究の時をもち、聖句を暗唱し、そして神様の素晴らしさを隣人に伝える。これらの訓練はとても勉強になりました。聖書を学ぶことについては、その方法論と共に、ディスカッション形式の聖書研究をどのようにリードしていくかも学びました。聖書の言葉を暗唱するのは、いろいろなメリットがありますが、深く言葉をかみしめて瞑想するのも役に立つと思います。

そういうグループにいと、これら一つ一つを完璧にしていくことが「イエスの言葉にとどまること」であり「敬虔」な信仰生活を送ることだと言う人もいて、それはちょっと違うぞと、これらのグループから意識的に距離を置いて

いたこともあります。しかし、いま振り返ってみると、今日の聖書にあるような「イエスの言葉にとどまる」生活のためには、これらの訓練は私の人生にとってとても大きな助けになっていると思い、このような訓練を受けられたことを心より感謝しています。

今も、聖書を計画的に通読していますが、先日、士師記を読んでいました。何度読んでも、本当に酷（ひど）い話がいくつも書かれています。その最後には「そのころ、イスラエルには王が無かったので、おのおの自分の目に正しいと見るところをおこなった」（士師記21章25節 日本聖書協会 口語訳）とあります。自分の良心に任せていた時期、それは、なかなか大変な時代です。

今はどうでしょうか。いくつかの大学の図書館に、「真理は自由をあたえる」などと書かれています。それは、この32節。31節は切り離してしまっています。イエスの言葉にとどまることによって、真理が得られ、それによって自由になるというのが聖書のメッセージです。イエスの言葉からはなれては、自由は単に、「自分の目に正しいと見るところを行う」にすぎないのです。イエスの言葉から離れないことは、単に、聖書の言葉を箱に入れて、体に付けておくとか、いつも暗唱聖句をとることでできることではないと思います。しかし、謙虚に、聖書の言葉に耳を傾け、イエスはその言葉を通して何を語りかけておられるかを日常的に学び続けなければ、悪臭を放つ自由になってしまわないでしょうか。

この大学でのリベラル教育は果たしてどうでしょうか。イエスの言葉に根ざしたものでしょうか。大学はイエスの弟子として神様に仕えているのでしょうか。イエスの弟子の証拠については、聖書は次のように言っています。「私は、新しい戒めをあなた方に与える。互いに愛し合いなさい。私が、あなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによって、あなた方が私の弟子

であることを、全てのものが認めるであろう。」（ヨハネ13章34—35節 日本聖書協会 口語訳）

最後にもう一度、「自由と敬虔」に戻ってみましょう。私が最近特にこの言葉にひかれるのは、聖書の福音書に描かれているイエスに、まさにこの言葉がぴったりだと思うからです。同時にたとえわたしがどのように神様の言葉で心を満たそうとしても、神様の御霊で満たして下さいと祈っても、イエスの自由さが得られないのです。それは、今も罪の奴隷だからでしょうか。

結局のところ、私にとっての敬虔は、聖書の言葉によって神様の素晴らしさ、そして、イエス様の自由さに接することによって、自分の不自由さと、神様からの距離の大きさに恐れおののくことによって、そのような者をも哀れんで下さる神様の愛の大きさを感謝しつつ、謙虚に生きることなのかなと思っています。またそれは、大学においては、閉鎖的・排他的な自分の自己中心という罪をそれぞれが認識しながら、神以外の何ものをも神とせず、開かれた価値観の普遍的価値を共有し、神様の喜ばれること、すなわち「敬虔」についての共通の価値観を対話を通して築いていくことだと考えています。みなさんはどう思われますか。

祈り

神様、このキリスト教週間を通して、わたしたち一人ひとりが、あなたの声に耳を澄まし、また、友人や、先生方など、他者を通して働かれる神様の御手のわざにも目をとめることができるようにして下さい。

主、イエス・キリストの名を通してお祈りします。

アーメン。